

上空から見た古保利古墳群

国指定史跡

古墳時代

(1800年前〜1400年前)

古保利古墳群

100基以上におよぶ巨大古墳群

たくさんの古墳が山の上にならんでいるのだ



古保利古墳群の配置図



古保利古墳群は、長浜市の北部、高月町と湖北町にまたがる琵琶湖に面した山々の頂上に、およそ3 kmにわたって築かれた古墳群です。これまでに前方後円墳8基、前方後方墳8基、円墳79基、方墳37基の合計132基がこれまでに見つかっており、全国的に見ても有数の規模を持った古墳群です。

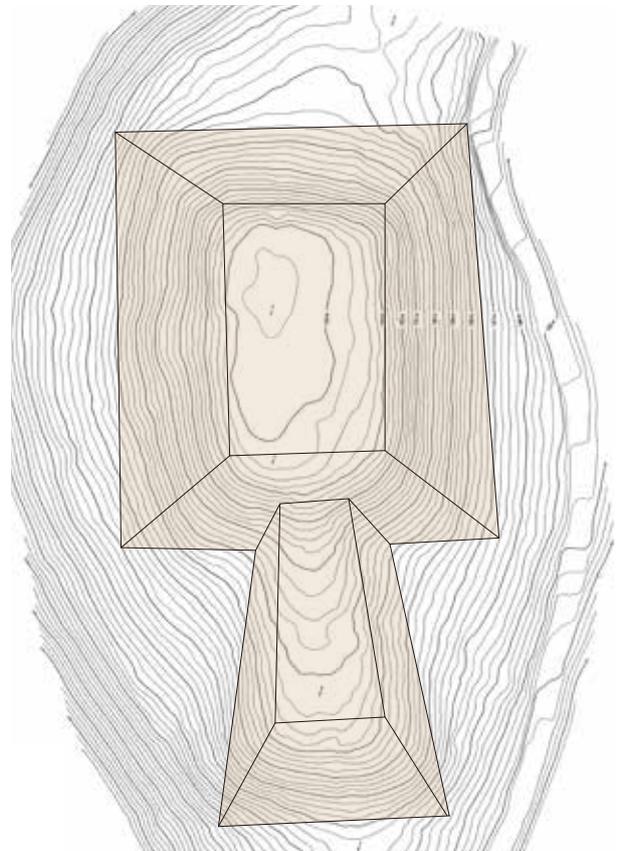
長浜市の遺跡 1

高月町西野ほか
平成15年8月27日指定

こまつ 小松古墳

小松古墳は全長約 60 m の古墳です。二つの四角形を組み合わせた「前方後方墳」という形をしています。前方部は長さ 23 m、後方部は長さ 37 m です。発掘調査がすでにされており、出土した土器の形などから、古墳時代のはじめごろにつくられたと考えられています。古保利古墳群の中で最も古い古墳であるとともに、全国的に見てもかなり古い古墳のひとつであるといえます。

石室をつくらず木製の棺を直接埋めていると見られ、古墳が完成した後も、何度かにわたって土器を使ったまつりを行っていたと考えられています。長浜市の北部にはじめて巨大な古墳をつくったリーダーは、亡くなった後もあがめられていたということなので、しょうか？



小松古墳の推定復元図

◆ 小松古墳の出土遺物

どうきょう おもてがわ
銅鏡は表側をみがいて
かがみ
鏡として使ったのだ



左の写真は小松古墳から出土した銅鏡（銅でつくられた鏡）です。方格規矩鏡という種類の鏡で、中国で作られたものでした。このほかに内向花文鏡という鏡も出土しています。

このような鏡は、まつりに使われたと考えられています。

このほかにも銅鍔（銅の矢じり）や鉄製品、たくさんのまつり用の土器などが出土しました。

にしのやま

西野山古墳



西野山古墳の推定復元図



古墳群のなかで
一番大きな古墳だぞ

西野山古墳は古保利古墳群の中で最も大きい古墳で、前方後円墳と呼ばれる形をしています。まだ発掘調査はされていませんが、古墳を測量したところ、前方部は長さ34m、後円部の直径は59mで、全長は約90m以上にもなることがわかりました。墳丘は2段または3段でつくられ、前方部の下には造出しと呼ばれる低い段があります。古墳の形から、小松古墳より後に作られたと考えられています。

◆古保利古墳群に葬られた人々

古墳時代の琵琶湖は物や人を運ぶために、たくさんの船が行き交っていました。近畿地方や東海地方から北陸地方へ、さらにその向こうの朝鮮半島や中国へ行くための重要なルートだったのです。古保利古墳群のつくられた長浜市の北部は、このようなルートの中かで非常に重要な地点でした。

古保利古墳群は琵琶湖に面した山々の上につくられています。この古墳群に葬られた人々は琵琶湖を利用した交通・交易に対して強い影響力を持っていたと考えられています。



琵琶湖と古保利古墳群

こふん 古墳とは何だろう？

コラム

古墳とは、3世紀から7世紀（今から1800年前から1300年前ごろ）にかけて多くつくられた当時の王や豪族など有力者のお墓のことです。

古墳は土を盛り上げてつくられ、表面には埴輪が置かれ葺き石が並べられることもありました。古墳の中央には石室などがつくられ、遺体を入れた棺が置かれました。遺体とともに、アクセサリーや武器、鏡など、たくさんの副葬品が納められました。

古墳には前方後円墳や前方後方墳、円墳、方墳など、様々な形があり、古墳の大きさや形は、古墳に葬られた人の権力の大きさや出自を表していると考えられています。

古墳をつくるにはたくさんの土を運び、埴輪を焼くなど、多くの人々の労力のほか、石を積み上げて石室をつくるための高い技術も必要でした。さらに副葬品には高価なものが多く、なかには中国や、朝鮮半島から伝わったものが納められることもありました。このようなことは、多くの技術者をかかえ、たくさんの人に命令ができるような強い権力を持った人でなければできなかったでしょう。

古墳はその巨大さや、納められた副葬品の豪華さによって、当時の地域の支配者の権力を現代にまで伝えていきます。

おお
大きな古墳をつくって
権力をしめすのだ



● 交通アクセス

公共機関：JR北陸本線「高月駅」下車、高月観音号「西野」下車徒歩30分
車：国道8号線「物部口」交差点を西へ約5km

● お問い合わせ

ながはましぶんかざいほご
長浜市文化財保護センター
〒526-0802 滋賀県長浜市東上坂町981 TEL 0749-64-0395